

平成26年度 第1回文化財審議会議事録

日 時 平成27年1月16日（金）午前10時～午後12時

場 所 鳥取市役所第2庁舎 5階第1会議室

出席者 星見委員（会長）、浅川委員（副会長）、尾崎委員、高田委員、永松委員、
岸本委員、檜村委員

事務局：森下文化財課長、中道参事、佐々木課長補佐、加川主任、中島主任、
山本主事

1 開会あいさつ（事務局）

これより平成26年度第1回鳥取市文化財審議会を開催する。

今年度は山城サミット等があり、開催時期が遅くなった。

今回の議題は建造物が中心である。

その他の事柄でもご発言いただければと思う。よろしくお願いします。

2 会長・副会長選出（事務局）

事務局：従前どおり会長・星見委員、副会長・浅川委員でお願いしたい。

各委員：承認。

事務局：星見委員が諸事情により遅刻のため議事進行は浅川委員にお願いする。

3 議事

事務局：今回は建造物の案件をまとめて報告させていただく。今年度もう一回開催する予定なので、そちらで26年度事業の報告と27年度事業計画を説明させていただく。

副委員長：では、議事に沿って説明をお願いする。

【報告】新指定・登録文化財について

事務局：資料1により説明。

① 摩尼寺本堂・鐘楼

委員発言なし

② 立川稲荷神社

事務局：資料2により説明

副委員長：拝殿の建築年代が1741年となっているが、これが本当なら県内で最古のものとなる。この建築年代については証拠や年代的考察はしているのか。また後でもいいので確認をお願いしたい。

事務局：また確認する。

【協議】 指定候補の文化財について

① 福田家住宅（国重文・追加指定）

事務局：資料３により説明

今は建物のみの指定だが土蔵と併せて地番指定になると思われる。庭園や植栽も対象になるが、江戸時代の庭園がそのまま残っているわけではなく、現状では敷地部分に関してはどこまでオリジナルか不明。

副委員長：建造物では調書が大事。棟札や資料よりも様式・技法をきちんとやってもらわないと建造物の調査にならないと思う。報告書はいつ出す？

事務局：27年度に県市で協力して作って、28年度刊行の予定。

課題として、現在公開がほとんどできていない。年何回かでも一般公開することを考えていかないといけないと思っている。

副委員長：他の建造物のように近隣住民の協力を得て保存会を作ってもらって、協力して一般公開をしていくようなことを進めていってもらえればと思う。

② 阿弥陀堂・しかの心・原田家住宅（国登録）

事務局：資料４により３件まとめて説明。

（阿弥陀堂説明中星見委員長到着）

星見委員長：今日は建物中心のようだがいろいろな形で審議したらよいのではないかなという事柄もあるような気がしている。鳥取にはいろいろな形で残されているものが多いと思う。いい機会なので皆さんの意見をいただいて文化財の指定に向けて協議していただけたらと思う。

（引き続き説明・司会は引き続き浅川副委員長）

事務局：鹿野については他に１０棟ほど登録候補がある。五月雨式に出されると対応に苦慮するのでできるだけ計画的に出していただくようお願いしている。登録の後は活用を考えていく方向で。

副委員長：阿弥陀堂はこれ単独で出すのか、市内にある吉田璋也の作品を一連のものとして申請するのか？

事務局：単独。民藝美術館は既に登録されている。吉田璋也の自邸についてはまだ所有者との調整ができていない。民藝協会としてはまとめて登録したいという気持ちもあるようだが、段取り的にはばらばらで。

岸本委員：原田家について、このほかの１０棟というのは町家にかかわるもの？

事務局：城下町部分で調査をしたときにひっかかったものであり、市街地に集中している。屋号も大体わかっている。

岸本委員：それらを順次登録にあげるのか？

事務局：まちづくりをしている NPO がまちなかの意見集約をはかって、了解がとれたところからあげていく。空家になっているところについては、NPO があずかるにしても登録なりなんなりの裏付けがほしい。問題としては単体では黒字が出ないこと。

岸本委員：10 棟の中には原田家より古いものもあるのか？

事務局：ある。県指定に向かおうとしていたものもあるが指定については所有者の了解が得られなかった。

③ 佐々木家住宅（樗谿グランドアパート）（市指定）

事務局：資料 5 により説明。もう少し資料をまとめたところで次回諮問に出す。鳥取市の指定としては箕浦家武家門以来 50 年ぶりくらいになる。

副委員長：久々の指定ということなので、他の物件をさしおいてこれになるという理由付けをしっかりとしておく必要があると思う。

高田委員：所有者の意思はどうか

事務局：現時点では問題ない。公開活用についても協力していただける。やまびこ館の外付け展示スペースとしてなど考えている。

副委員長：指定の原則のようなものが必要である。税金を投入するわけなのでこういう方針でこういう順番でやっていきましょう、というようなことがあった方がいい。

永松委員：指定するとしたらどの範囲をするのか？保存管理の際はどのような形を目指すのか？

事務局：当初建物と昭和 21 年の増築部分を考えている。保存管理に関しては基本的には現状維持をしていきたい考え。もちろん修復が必要なところはしていく。

副委員長・高田委員：登録にしておいた方が、あとあとの活用はしやすいのではないかと？昭和 5 年の建物なら登録の方が有効に活用していけるのでは。

事務局：所有者の意思としては、登録して活用するというよりは現状をできればそのまま残したいという考え。また、調査結果をまとめた際に報告するが、進駐軍の使用時の状況がそのまま保存されている面もあり、事務局としてもそのように考えている。

浅川委員：できるだけ将来の有効活用に可能性を持たせるようなやり方を考えていただきたい。

○民俗資料について

樫村委員：賀露地区公民館から、公民館の資料室の資料をどうしようかという相談が来ている。大まかにリストを作って写真を撮影し、分類まではした（総数588点）。

地域住民はそこを会合場所とかにしたいので捨てればという意見がある。こちらとしてはできれば残したいので、重要なもの等を分類したいと思う。

民俗資料について、旧市のものはほぼ残っていないので、残していく方法を考えてほしい。民俗資料の保管施設が全くないのも問題かなと思っている。本当なら市に民俗資料の鑑定等ができる人がいた方がいいと思うが、長期的には県市含めて検討していくべきと思う。

事務局：博物館にも収蔵機能がない。既存の資料館でも民具の積極的な収集というのはしていない。埋文センターの収蔵室に入れたりしているが収集したものでなく以前からあるもの。事務局としてもそういうことを考えていく必要があるという認識はあるので、樫村委員のご指摘については考えたいと思う。

樫村委員：建物調査の際に、建物だけ残して中にある民具とかは捨ててしまうということがままある。本当はその住宅の中でどのような生活がされていたのかも併せて調査するべきだと思う。

副委員長：確かにそれは盲点。どこもしていないが民具についてもすべき。市教委・県教委・文化庁一緒になって考えること。お寺でやっているようなこと（建物、文書、仏像（美術工芸品）を全て調査する）が住宅でもできるようになれば理想的。

○次回日程について

事務局：またメール等で調整します。